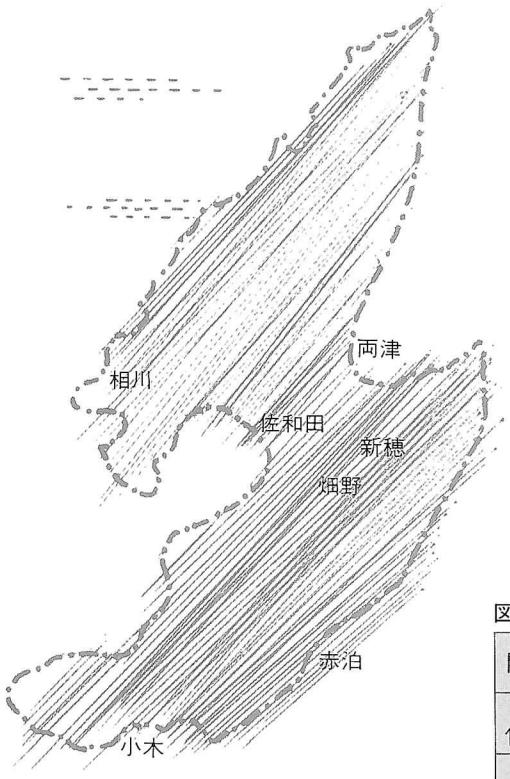
新潟県 佐渡ヶ島
聖跡佐渡はゆれている

過疎化が進みゆくなかで、他宗他教団との共存共栄という現実をふまえ、今後どのような布教方法、寺院の活性化の方法があるのかを検討しなければならない。



図表 1

開基年代	寺数	%
慶　長 1596〜1614	42	46
元　和 1615〜1624	27	29
寛　永 1624〜1644	23	25
計	92	100

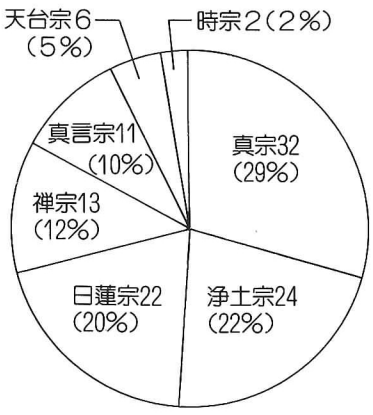
※開基年代不明　18

《過疎化の現状》金山の衰退が過疎化を招き、寺院は荒廃し、年寄りばかりの隠居島となっていく。

佐渡は、慶長年間（一六〇〇年頃）に鉱脈が発見され、金山の発展と共に相川地区を中心に人口が増え、町が拡大し、同時に多くの寺院が建立されていった。表のように開基年代が一応想定できる九二の寺院が、みな寛永年間（一六二四〜一六四四）以前に成立しており、開基年代不明の寺も多くは寛永以前の成立とみられている（図表1、2、3）。

しかし、一七〇〇年から一八〇〇年頃になると、金山の衰退化がはじまり、人々も佐渡から出て行くようになった。その影響を受けて檀家も減りはじめ、寺院もしだいに衰退の様相をみせはじめた。農漁村の寺院はそれほどでもないが、特に鉱山関係の檀家の多かった寺院ではその影響は大であり、廃寺あるいは合併を余儀なくされた寺院も出てきた。その後も過疎化は進み、明治から昭和初期に建立された墓は後継者もなく荒れはてている（写真1）。現在におい

図表 2　（寛永年間）



図表 3　（現　在）

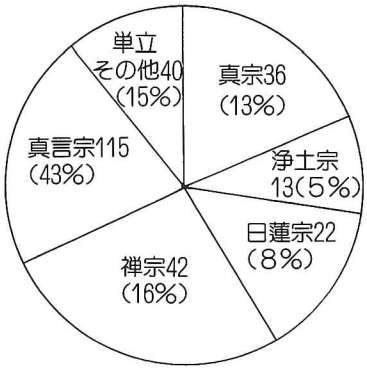


写真1　建物もなく、墓のみ残った廃寺

ても過疎化は進行中であるが、この大きな原因として離島という地理的条件からくる企業誘致のむつかしさがあげられよう。実際、佐渡では大きな産業もなく、公務員とか教職につく人が多い。

このような状況下で、寺院の合併という話も出てくるが、この点については、住職が賛成しても檀家側に抵抗があり、すぐには実現できるとは思えない。また、そうした檀徒も高齢化しつつあり、今日の佐渡は**「隠居島」**とさえいわれている。

《島民の信仰》昔からの講中もしだいに減り、信行活動は低下するばかりである。

ここでは、年忌、追善の供養の時には、僧侶の読経後、その夜、法華の講中を呼んでお題目を戴くとか、お供え、供養の席もていねいにする土地柄である。その意味では信仰心はあるのだが、それが、寺院にとっての十分な布施収入とは結びつかない。しかし、それでも寺を修理したり、寺族の生活費というのは檀家の布施収入に頼らざるを得ない。

この地は、元来島特有の閉鎖的な体質を持っており、歴史的にみると大聖人の歩かれた地域以外では、日蓮宗は伸びていない。しかし講中という改宗しなくても良い方法により、多くの人々を日蓮宗のお題目の輪に取り入れていったのである。ところが、いつの頃からしだいに講中の活動も衰えはじめ、今日ではかつての勢いはみられなくなってしまった。

また信仰心も、いわゆる先祖供養を中心とした仏事には熱心であるが、特に御書を読むとか、日蓮宗の教えを学ぶというものではない。この点、**「大聖人の霊場だから信仰心も強いだろう」**と期待してよその土地から来た僧侶をがっかりさせるところでもある。

近年では、護法会を作り寺院もちまわりで年会費を集めて活動をしているが、年々不活発、マンネリ化に陥ってしまっている。

《他教団と日蓮宗寺院》この地では既成仏教教団や立正佼成会とも共存共栄している日蓮宗寺院が多い。

相川地区の場合、葬儀の時には各宗の僧侶が出座し、その寺の宗旨に合せたお経を読み布施をもらってくるという、いわば超宗派互助システムの習慣があるが、人々はそのことを信仰上の矛盾とは考えず、むしろ親しみを感じありがたがる。その際葬儀の布施は基準を決めてやっているので、寺による不公平はなく、不満も出てこない。

佼成会は他宗教との表面的な対決をさける布教方法をとっている。その為佐渡における佼成会の普及率は高く、殊に日蓮宗寺院とは密接な関係がある。実際、檀家の中には佼成会員がかなり存在し、また幹部となっている者もある。寺院によっては佼成会員が積極的に総代をつとめている場合もある。

彼らが入信していく理由の一つには、この地方では身内結婚が多いので、結婚と同時にいやおうなく入れられるということがある。しかしまた彼らは、寺院の行事には進んで参加するし、寺院にとってはありがたいということにもなる。この日蓮宗寺院と佼成会との密接な関係について、佼成会幹部も**「教えは一つだから、法華の僧侶ともお互いに懇意にしている」**と語っておりこの関係は急に変わることはなさそうだ。

また佐渡では、他宗の寺院のまわりではお互いに布教を避けるといった**「なわばり意識」**があり、他宗をおびやかすような積極的な布教方法はとれない。また祈禱による布教もむつかしい。そこで、寺院に腰をすえて、寺にやってくる人々とお茶飲み話をしながら接触していくという方法がとられている。

他教団をみてみると、佼成会以外の新宗教もほとんどみられず、キリスト教も伸びないし、創価学会というと蔑視される風潮さえある。

《佐渡寺院の活性化》特殊な宗教信仰形態の中にあって、なんとか頑張って寺院の護持発展を考えるエネルギーもある。

大勢の観光客に対し、日蓮宗寺院の参拝コースを作り、記念品を出すというアイデイアもあり、他宗ではあるが芸能人を呼んだり、ジャズコンサートを開催し、人々との接触をはかっている僧侶もある。

他宗から欲しいと申し出のあった無住寺の中には、立派に使用できる本堂、境内等もあるのでなんとかしたいが、法縁がおさえてしまっているので手が出せない（写真2）。そういう意味では、法縁の存在がマイナスの効果をもたらしているといえる。

また本宗僧侶の一部には、佼成会や他宗とは明確に一線を画し、佼成会に入っている檀家をきびしく批判する住職とか、他宗の葬儀には出座を断り、また自坊の葬儀にも他宗の僧侶には出座してもらわない住職もいる。

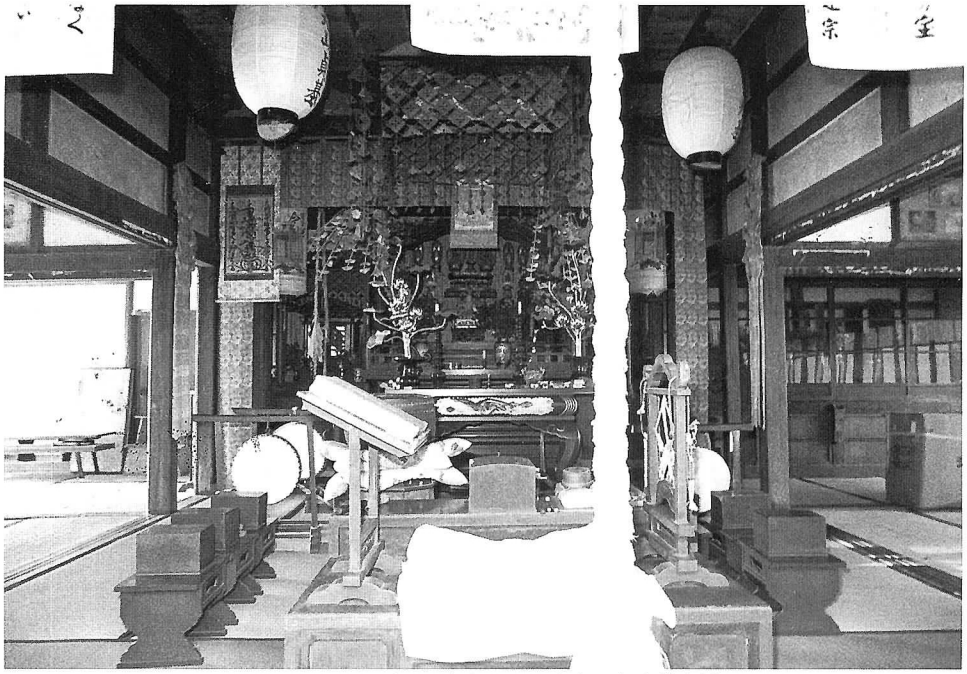


写真2　無住でも、きれいな本堂内部